

Sustainable Report No.113

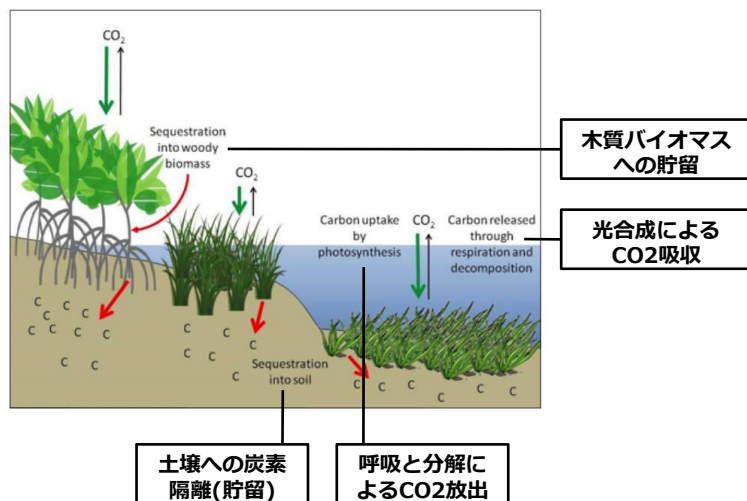
# 炭素吸収源としての湿地の重要性



## ■ 湿地の価値

- 湿地には、湿原、河川、湖沼、池、貯水池、水田、海岸、干潟、マングローブ、サンゴ礁、藻場などさまざまな生態系や水辺環境が含まれている
- 陸地のうち4%を占め、**草原の6倍の炭素を保有し、泥沼地だけでも6500億t-cの炭素を貯留**
- 多様な生物が生息し、地球全体の雲や雨の量、**地域気候を支えている**

## ■ 炭素循環モデル（沿岸湿地）



出典：「Wetland Restoration for Climate Change Resilience」  
 線・日本語訳：筆者加筆

## ■ 湿地タイプ別炭素保有量

湿地タイプ	土壌炭素隔離レート	メタン排出レート	ネットGHG貯留能力	長期炭素保持量
塩性湿地	高	低	高	高
マングローブ林	高	低～高	中～高	高
氾濫原湿地	高	高	低	中
河口域森林	高	低	高	中
藻場	高	低	高	高
熱帯泥炭地	低	中～高	中	極高
温帯泥炭地	低	中～高	中	極高
内陸淡水鉍質土壌湿地	低～高	中～高	低～中	低～中
淡水森林湿地	高	中	中	極高

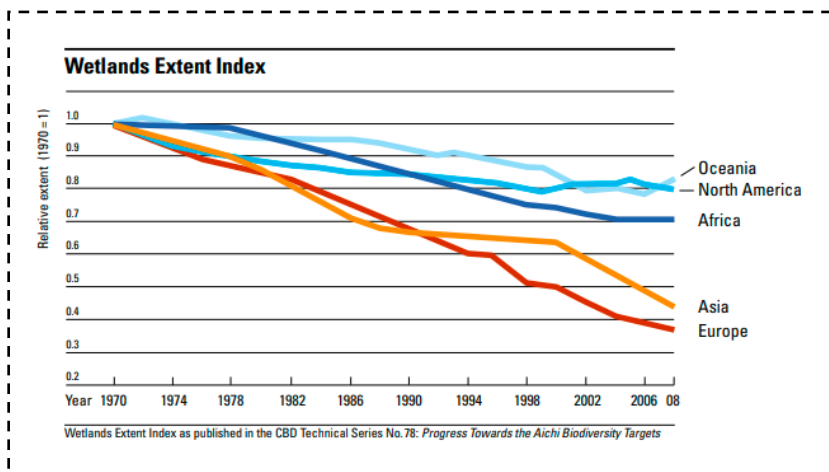
出典：「Wetland Restoration for Climate Change Resilience」を基に筆者作成

## 脅かされている湿地の現状

## ■ 湿地面積の減少

- 泥炭の火力発電への利用、排水や干拓による農地への転換、アマゾン森林湿地の栽培農地への転換が進み、世界の湿地が失われている
- 日本では諫早湾や八郎潟の干拓で**湿地が農地や水田に変えられ**、世界では開発を目的とした埋め立てにより大量の湿地が消滅した
- 干ばつによる大規模火災が発生し、世界各地における湿地消滅の一因となっている

## ■ 湿地面積の減少



出典：THE RAMSAR CONVENTION SECRETARIAT

## ■ ブラジル、パンタナール森林湿地の火災



出典：WWF

## 世界の湿地を守るために何をすべきか

## ■ 取り決めの発行

- 湿地の重要性に注目し、経済的開発から保護し消失を防ぐために、世界中の持続可能な開発の達成に向けて1975年に**ラムサール条約が発効**され、170カ国が加盟する国際条約となっている
- **湿地保全と賢明な利用を目的**に、相互依存性、野生生物の生息地、養分循環、洪水調整など**湿地の機能認識を求めている**
- アメリカでは、「No Net Loss」の原則を掲げて、**湿地の減少と機能低下防止が国家政策に**
- オランダやデンマークでも、既に湿地の破壊をやめ、湿地を再生する政策へ転換している

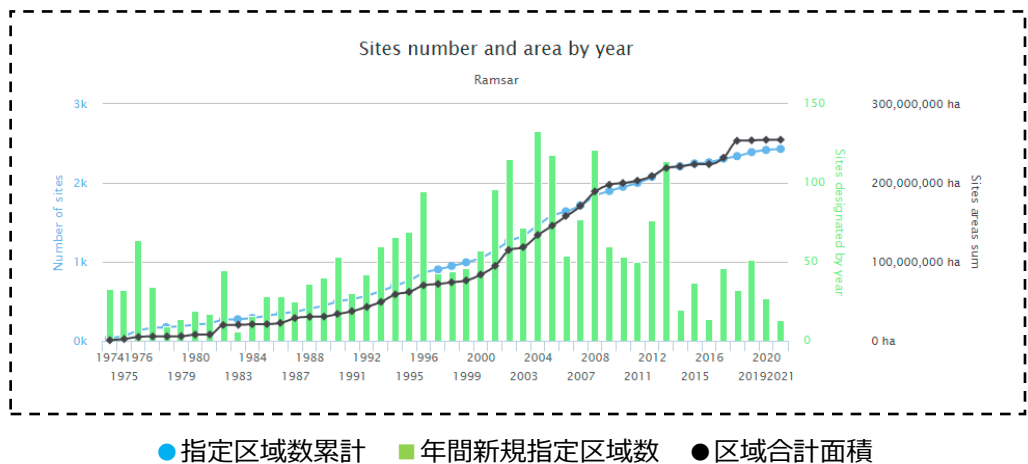
## ■ 湿地面積ランキング

(単位：ヘクタール)

1	ブラジル	26,794,455
2	ボリビア多民族国家	14,842,405
3	コンゴ共和国	13,813,865
4	カナダ	13,086,767
5	チャド共和国	12,405,068
6	コンゴ民主共和国	11,906,617
7	ロシア	10,323,767
8	メキシコ	8,657,057
9	オーストラリア	8,307,694
10	ペルー共和国	6,784,042

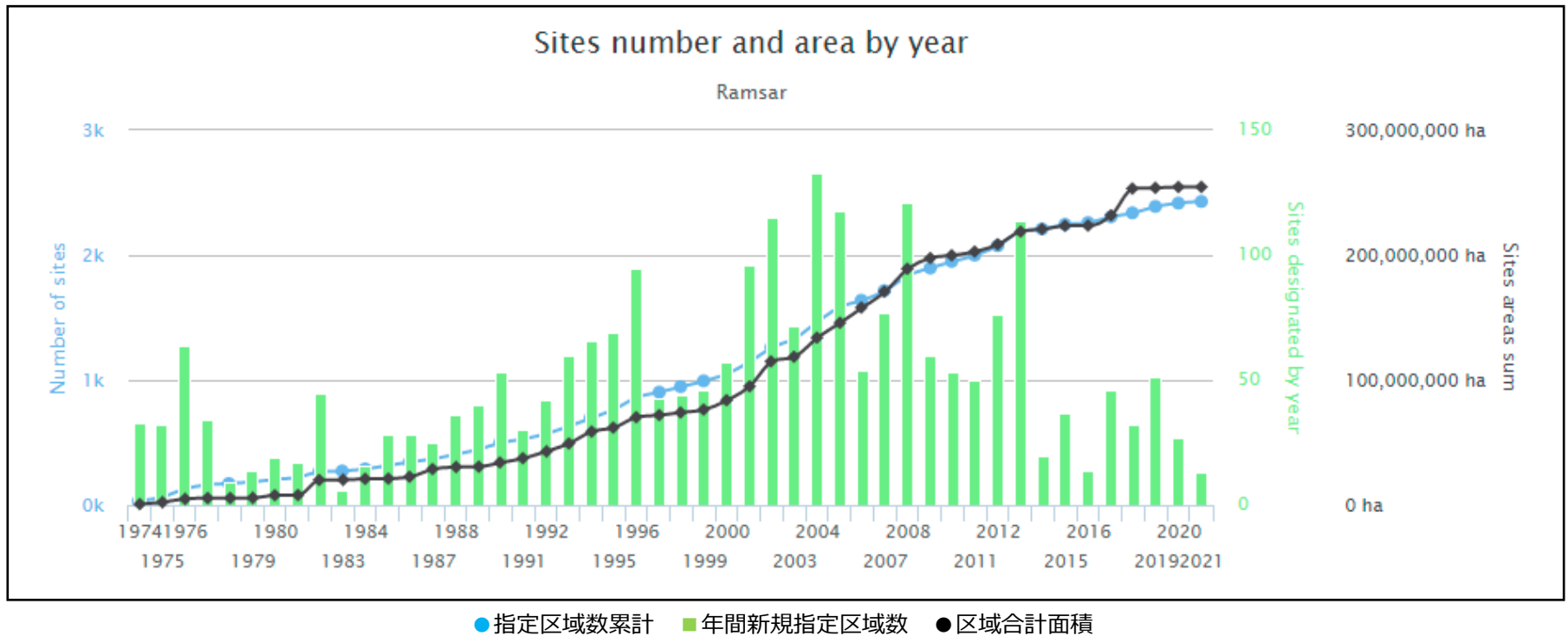
出典：THE RAMSAR CONVENTION SECRETARIATを基に  
筆者作成 ※基準1~9を含む（2021年10月末日時点）

## ■ ラムサール条約 – 区域と面積年度別グラフ



出典：「Wetlands: a global disappearing act」

## 取り組みは充分と言えるのか



出典：「Wetlands: a global disappearing act」

## ■ 地球環境に貢献できる活動

- 森林湿地であった場所で現地の植生を調べて再生活動をすることで、**周辺の水域の水保持量を多くする事ができ、地域気候の復元や砂漠化を防ぐことができる**
- 湿地復元にカーボンクレジットの仕組みを使い再生することで、復元のための予算確保が可能
- 湿地農業を実施することで天然資源基盤を強化し、食料の供給などを行うことで地域社会との連携を持続的に行うことが可能
- 湿地復活により氾濫した後の蒸発スピードを遅くする事で、**湿地生態系の復活や周辺季節性湿地の拡大をベースに世界の気候変動に対抗できる**活動になり得る

## ■ ボリビア・ベニの森林湿地



写真：筆者撮影（2021年4月）

## ■ カピバラの生息する湿地



写真：筆者撮影（2021年4月）

複雑に連なる課題解決に繋げる

## ■ 参照・引用資料

- THE RAMSAR CONVENTION SECRETARIAT, 「Wetland Restoration for Climate Change Resilience」  
([https://www.ramsar.org/sites/default/files/documents/library/bn10\\_restoration\\_climate\\_change\\_e.pdf](https://www.ramsar.org/sites/default/files/documents/library/bn10_restoration_climate_change_e.pdf) )
- THE RAMSAR CONVENTION SECRETARIAT, 「Wetlands: a global disappearing act」  
([https://www.ramsar.org/sites/default/files/documents/library/factsheet3\\_global\\_disappearing\\_act\\_0.pdf](https://www.ramsar.org/sites/default/files/documents/library/factsheet3_global_disappearing_act_0.pdf))
- THE RAMSAR CONVENTION SECRETARIAT, 「Sites number and area by year」 (<https://rsis.ramsar.org/?pagetab=2>)
- WWF, 「Brazil in flames: Pantanal sets record fires while the government denies the evidences」,2020年10月5日 (<https://www.wwf.org/?933841/pantanalfires>)
- Paul Hawken, 「Regeneration Ending the climate crisis in one generation」,2021年9月21日

## ■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先： [info@sfinter.com](mailto:info@sfinter.com)



株式会社サティスファクトリーは、SDGsに係る人材教育プログラム『[KIZUNA ESD](#)』を企業に提供しております。全ての従業員によるサステナブルレポート作成やSDGs映画上映会の実施など、各種運用の導入と内製化を支援いたします。

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社サティスファクトリーに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

### —— サステナブルレポートとは？ ——

サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマをとりあげ、サティスファクトリー社員が調査報告書を作成・発信しています。



全従業員で  
毎週更新中